

身体で学ぶ漢字

—外国人の子ども達と外国人住民に対する漢字ワークショップから—

松 井 かおり

英語研究室

Learning Kanji through the Body Action : The Report of Kanji Workshop for the Foreign Students and the Foreign Residents

Kaori MATSUI

Department of English,

Asahi University

1. はじめに

本稿は、日本語学習者が「最も難しいと感じる学習項目」(武部1989)の1つである漢字を、ダンスやパントマイムなどの身体表現を通じて学ぶ学習/教授方法を探ることを目的として行った漢字ワークショップの事例報告である。

外国人学習者の中でも、高等学校や大学への進学を希望する青少年は、漢字の習得に躓くことによって教科全体の学習モチベーションが下がる傾向にあると言われているが、それは非漢字圏出身者²が多く在籍する本学の留学生にとっても同様であろう。学部の専門科目を履修する上で、基本的な日本語力を下支えする漢字の習得は必要不可欠なものであるが、短期間で専攻科目の専門用語も含め多くの語彙の習得を求められる学部留学生の心理的な負担は大きいことが推察される。

これまでも、本学学部留学生を対象とした漢字学習に関して、例えば多言語表記の学習語彙教材が作成され大いに活用されている。しかし、漢字学習¹/教授方法それ自体についての研究はまだ着手されていない。身体を使って漢字を学ぶという学習方法についての本パイロットスタディは、最終的には非漢字圏出身者の多い本学学部留学生の漢字学習への拒否感を軽減し学習意欲を高めることをめざしている。その第一歩として、本事例では、漢字学習初心者である外国人の子ども達や成人外国人を対象とし、従来の学校環境における漢字学習とは異なる学習方法の可能性を探った。舞踏、演劇、言語教育、ワークショップの専門家達が共同でワーク

ワークショッププログラム案を探索し試行した。

2. 先行研究

2.1 漢字学習ストラテジー

日本の高等教育機関において日本語を学んでいる留学生の従来の漢字学習/教授の道標は日本語能力試験や漢字検定であり、検定級に求められる「語彙」の出題に合わせて必須漢字を暗記する学習/教授が一般的である。しかし、日本語能力試験1級で求められる2,000字の漢字の読みだけをみても、音読み、訓読み、あるいは訓読みのみ、コロケーションによる特別な読みなど多様である。つまり漢字学習は、暗記による学習方略には限界があり、文法学習を踏まえた、読む、聞く、書く、話すという4技能の活動の中で行われる必要があるといえる。

これらの膨大な漢字を学習者がどのように学んでいるのかについては、これまで学習者の学習方略、すなわち学習ストラテジー研究として先行研究で扱われてきた。例えば、非漢字圏学習者(オーストラリア)の漢字学習方法を調査して作成された、Strategy Inventory for Learning Kanji (以下、SILK) (Bourke:1996)³⁾は、漢字学習者がとるストラテジーを(1) 学習を計画するストラテジーと、(2) 漢字学習そのものについてのストラテジーの2つに大別している。(1) については、学習計画ストラテジー (「一日/一週間毎に漢字を学習するための時間を設定する」等)、学習を評価するストラテジー (「学習した漢字を覚えているかどうか確かめるため、定期的にテストをする」等)、他の人と協力するストラテジー (「他の人と協力して一緒に練習する」等) という学習の習慣づけや行動に応じて3項目に分類されている。(2) については、関連づけストラテジー (「新しく学習した漢字をすでに知っている漢字と結びつける」等)、ストーリーストラテジー (「教師から教わったストーリーを使う」等)、部首ストラテジー (「同じ部首を持つ漢字のグループを作る」等) ほか、外部から観察できない学習者の認知行動を含めた12の項目に分類されている。

しかしこのSILKは、漢字学習者の行動を限定的にしか捉えていない可能性がある。というのは、学習者個人(あるいはペア)での学習場面のみを想定し集団学習場面を取り上げていない、また「文字としての漢字学習に偏っていて、漢字の読みや意味など漢字語彙に注意を向ける記述が不足している」(渡部:2014)、さらに身体を使ったストラテジーに関して歌以外の記述がないなど漏れ落ちている学習者行動がある。

漢字教授法を考える上で、学習者がとるストラテジー行動を知ることは必要不可欠である。今後はストラテジーの調査方法やその抽出方法の再考とともに、分析の結果をいかに教授方法へとつなげていくのかということが課題となる。

2.2 漢字学習ワークショップ

漢字を学ばせるためのワークショップではなく、学習ストラテジーを学ばせるためのワークショップの試みも始まっている。例えば黒田・李（2012）、黒田・小関ほか（2013）は、大学の留学生に対し、授業外で自由に参加できる時間を設け、漢字ワークショップを実施した。ここでは、漢字学習方法や学習のリソース（図書、ウェブサイト等）ならびに学習ツール（電子辞書、スマートフォンのアプリ等）、個人化辞書シートの利用方法など、様々な学習ストラテジーを留学生に提案することによって、漢字そのものを教える/学ぶというより、学習ストラテジーを自分で選択し利用できる自律した学習者を育成しようとしている点が興味深い。大学や日本語学校など、年間の学習カリキュラムを組んで日本語教授を行う場では、授業外で漢字ワークショップの場を設けることによって、授業進行を妨げず（あるいは授業カリキュラムを修正することなく）授業を含めた学習者の漢字学習を支援することになり、現実的で即効性のある試みであると思われる。

本研究も授業外で行うワークショップを提案することによって、漢字学習者が多様な学習ストラテジーを獲得し自身の学習に利用するための一助となることをめざす。

3. 研究方法

ワークショップ参加者は、可児市国際交流協会が主催する「さつき教室」⁴で高校進学を目標に学ぶ海外にルーツを持つ子ども達⁵（以下、さつき生徒）である。ワークショッププログラムを作成するにあたり、さつき生徒が漢字の特に語彙学習に用いている学習ストラテジーを知るためにアンケートを実施し⁶（Appendix 1 参照）、教師に対しては、漢字教授方法や生徒に使用して欲しいストラテジーについての聞き取りを行った。また参考とするために、本学の留学生別科学生（以下、別科生）および学部留学生にも同様のアンケートを、また教師たちにもインタビューを実施した。協力してもらった学習者は、さつき生徒14名（フィリピン、ブラジル、中国）、別科生10名（ベトナム、ネパール、ミャンマー）、学部留学生11名（ベトナム、ミャンマー、韓国）の合計35名である。学習者の日本語習熟度については、別科生は日本語能力試験4級程度、学部生は1級を持つ1名を除き3級⁷所持者が最も多かった。さつき生徒は日本語初学者であり、小学校低学年程度の漢字を学習している者が大半を占めた。インタビューに協力していただいた教師たちは、それぞれ8年から15年の教育歴があった。

アンケートの結果、「さつき教室」の中国人生徒2名を除き、全員が漢字学習は難しいと回答し、使用しているストラテジーは、合計9種類で、その数も種類も少ない様子が多くなった（表1参照）。前述のSILKでは、漢字学習ストラテジーの分類項目は15を数え、具体的な項目は56に上る。また渡部（2014）は非漢字圏学習者の勉強方法を調査するために87の学習

表1 学習者の漢字学習ストラテジー

漢字学習ストラテジー		学習者の種類
-----	先生が授業中に配ったプリントを使う	さ(10)・別(13)・学(6)
-----	インターネット、スマートフォンのサイトを使う	さ(9)・別(6)・学(9)
-----	カラオケなどで歌を歌う	さ(7)・別(5)・学(5)
-----	好きなテレビや漫画を見る、読む	さ(8)・別(6)・学(1)
繰り返し	何度も書く	さ(1)・別(9)・学(9)
学習計画	自分で買った漢字の参考書を使う	さ(1)・別(6)・学(6)
-----	知らない漢字の読み方を先生にたずねる	さ(4)・別(6)・学(3)
-----	テスト勉強をする	別(6)・学(4)
補償	意味を考えて覚える	別(1)・学(2)

※学習者の種類について、「さ」はさつき生徒、「別」は本学留学生別科学生、「学」は学部留学生を表す。()内の数字は人数を表す。

※漢字学習ストラテジー分類は、SILK (Bourke:1996) に基づく。---は該当項目がないことを表す。

表2 教師が学習者に使用して欲しいと考える漢字学習ストラテジー

漢字学習ストラテジー	
繰り返し	何度も書く
経験	氏名、住所など使用頻度が高く生活に必要な漢字を積極的に使用する
筆順	正しい書き順を練習する
部首	漢字の部首など構造を知って、知らない漢字でも意味を推測する
経験	教科書や専門分野で頻出する語を覚える
補償	辞書を使う
文脈	会話や文章の中で漢字を覚える

※漢字学習ストラテジー分類は、SILK (Bourke:1996) に基づく。

者行動を列挙していることと比較するとそれは顕著である。また、さつき生徒が採るストラテジーの特徴として「インターネット、スマートフォンのサイトを使う」「カラオケなどで歌を歌う」「好きなテレビや漫画を見る、読む」といった教室外での生活場面で漢字と触れる機会を多く持っていることが明らかとなった。それに対し、別科生および学部生は、「自分で買った参考書を使う」「テスト勉強をする」などの学校での学習の一環として漢字を学ぶことが多く、「何度も書く」「意味を考えて覚える」など学習上の工夫を意識して行っている様子がか

がえる。

一方、教師は学習者に対し、「偏や冠など部首で構成される漢字の構造を理解し、正しい書き順で、何度も書きながら、そして会話や文章の中で文脈に即した使い方を覚えながら、時には未知の語であっても部首を手掛かりに意味を推測し、辞書をひきながら学習ができる」姿を求めている（表2参照）。これは学習者が目標とする高等学校や大学で勉強していくためには、受験や専門課程での学びで必要となる学習言語としての漢字語彙を取得させたいと教師が考えているからであろう。さつき生徒がカラオケやテレビで覚える生活言語としての日本語の語彙は、学習言語として必要となる語彙とは異なる場合がある。しかし初学者に対して、教師は「漢字学習を拒否しないで、まず興味をもってもらうことが当面の目標」であると考えていることがわかった。特に「表象文字など絵に置き換えて覚えることが可能な初期の漢字学習以降、学習が進むにつれて、生徒が多様な漢字を覚えることに疲れ学習意欲を失ってしまうことがある」という意見が聞かれた。また「氏名、住所など使用頻度が高く生活に必要な漢字を積極的に使用する」というストラテジーを挙げた教師は、通常平易な漢字から教え/学ばれる傾向にある漢字学習において、日本語初学者であっても、生活者として必要な漢字については優先的に学ぶ必要があることを強調した。

以上の聞き取りとアンケート結果を踏まえ、今回の漢字ワークショップでは、以下2種類の漢字ワークショップを考案・実施することになった。(1) 子どもの漢字初学者に向け、漢字の部首に親しむ機会を設けることで、学習者の持つ漢字語彙の拡大や意味理解を助ける漢字ワークショップ、(2) 成人の漢字初学者に向け、生活者として必要度の高い漢字に親しむことにより社会生活を支援する漢字ワークショップである。最初に、学習者に漢字の部首を意識してもらうためのワークショップ事例を報告する。

4. 漢字ワークショップ実践

4.1 外国人の子ども達が学ぶワークショップ

- ・日時：2014年12月12日 14時～16時
- ・場所：可見市総合会館分室
- ・参加者：20名「さつき教室」生徒（フィリピン・中国）と可見市周辺の外国人住民（ブラジル）

ワークショップの実施に先立ち、プログラム作成のため、舞踏家、ワークショップファシリテーター、日本語教師、演出家が2014年5月から12月までの期間、合計7回の会議と練習を重ね、部首理解に特化したワークショップ活動を考案した（Appendix 2参照）。このプログラムでは「叩」「鳴」「吐」など口を部首に持つ漢字や「心」「息」「怒」「悪」「悲」「忘」「思」のよ



図1 歌に合わせて「叩く」



図2 部首を意識して書く



図3 部首を意識して漢字のイメージを表現する

うに「心」を部首に持つ漢字に焦点を当てた。最初は「幸せなら手を叩こう」のメロディーにのせてそれらの漢字を歌いながら、その後動作をつけて踊りながら歌った(図1参照)。十分に漢字の意味を理解した後、歌詞の中から「心」を部首に持つ漢字の意味やイメージに相応しい動きを参加者がグループで考えた(図2、図3参照)。その動きをグループごとに発表し、互いの演劇的即興パフォーマンスを講評し合った。

活動後の振り返り会では、子ども達が「楽しかった」と概ね活動を好意的に受け止めていた反面、見学者や教師から、「このようなワークショップでの活動と、教室で行っている教科としての漢字学習をどのように結びつけて指導したらよいか」という質問があり、今後の課題として残った。

4.2 外国人住民(成人)を対象とした漢字学習

- ・日時：2015年1月31日 14時～16時
- ・場所：美濃加茂市東図書館
- ・参加者：23名 美濃加茂市周辺在住の外国人親子(ブラジル人、ペルー人)と日本人有志

次に紹介するパイロット実践は、外国人住民を対象とした防災ワークショップでの漢字学習の一場面である。参加者たちは日本語初心者であり、日本語を教室で学んだ経験を持たない人が多かった。

「日本語初心者であっても、生活に必要な漢字については優先的に学ぶ必要がある」という日本語教師たちからの意見を参考にし、生活に必要な漢字の選定を行った。生活に必要な漢字とは、学習者の住所や所属先などの個人情報のほか、災害、医療など緊急場面で生命を守るために判読が必要となる漢字のことである。ワークショップが外国人を対象とした防災学習の場で行われることから、災害時に頻繁に用いられ学習必要度が高いと考えられる漢字語彙を集め(例えば「地震」「洪水」「津波」「警報」「緊急」「病院」「食料」など)、災害発生時、被災者が真っ先に認知が必要となる避難場所や避難経路を表す「避難」という語彙を今回の学習漢字



図4 「避難」の意味を身体で
確認



図5 「避難」の「避」



図6 「避難」の「難」

に選定した。

ブラジル人とフランス人のワークショップファシリテーター達からは、自身の経験を踏まえ、「漢字学習経験を持たない外国人は、複雑な漢字はいくつかのパーツに分けて図のように捉えることがある。さらにそこにストーリーをつけることによって認識が楽になるのではないか」という提案があった。そこで、学習目標語である「避難」を「避」と「難」の2つに分け、さらに「避」は左右真ん中の3つの部分に、「難」は左右2つの部分に切り分けて、ストーリーを考えパントマイムで表現した。「避」は、地震の後、急いで左向きに逃げ出そうとしている野球帽を被った男性とそれを追いかけるリュックを背負った女性、さらに頭の先にボンボンの付いたベレー帽を被って正面を向き立ちすくんでいる女の子が右端にいる、という場면을ファシリテーターと参加者が協力して演じた(図5参照)。「難」は、左側に立つ男性が正面を向いておろおろして立っているその横で、右側の人が梯子に上って手を伸ばし、高いところから下りてこない飼猫を連れて逃げようとしているのだという場면을創作した(図6参照)。いずれも、漢字の形から災害時に避難しようと慌てる人々の動作を連想させるものであり、外国人参加者は通訳を待たずに意味を理解し笑い合う場面が観察された。

外国人を対象としたワークショッププログラムの作成と実施においては、ワークショップ実施責任者が日本人か否かに関わらず、参加者である外国人の視点が常に求められる。本実践は、外国人ファシリテーターが参加者と同じ目線に立つことによって生まれた発想が、パントマイムという身体を介した表現媒体を用いることで実現可能となった。

5. まとめ

5.1 身体と記憶の関係

今回2つの漢字ワークショップで行った身体を使った学習活動は、歌に合わせた振付けダンスから、演劇的パフォーマンス、パントマイムと多岐に渡る。これらは、学習者が気分転換を図ることを目的にしたお楽しみ活動でも、また多言語・多文化という「特殊」な言語環境下で

考案された苦肉の策でもない。

我々は、英単語や漢字の綴りを思い出そうとすると、無意識に指を動かしその綴りを宙や体の一部に書きつける。この所作は、「空書」(佐々木:1984, 佐々木・渡辺:1983, 1984)と呼ばれ、興味深いことに非漢字圏出身者には観察されず、日本人や中国人の漢字圏出身者に限って観察される行為だという(蓮實:1977)。この事実から、西欧のような非漢字圏出身者が単語を音声の連なりとして捉えているのに対し、漢字圏出身者である我々は、漢字を「運動感覚的な成分をともなった『視覚的表象』として記憶している」ことが推察される(佐々木:1987)。つまり「視覚的表象」としての漢字は、単に我々にその形を見えとして提示するだけでなく、その形をなぞる我々の動きを誘発する。換言すれば、我々の頭の中にある漢字は、静的な記憶の断片というよりも、漢字の「形」のイメージであり、それが想起される時、身体の動きと一緒に現れるのだと考えられる(図7参照)。

複雑な構造を持つ膨大な数の漢字を識別し使用するために、身体を使って「身につける」という漢字学習方法は、我々の認知行動に適っている。身体を使った漢字ワークショップは我々が無意識にとっている認知行動を学習方法として集団の場面でも活用しようという試みである。

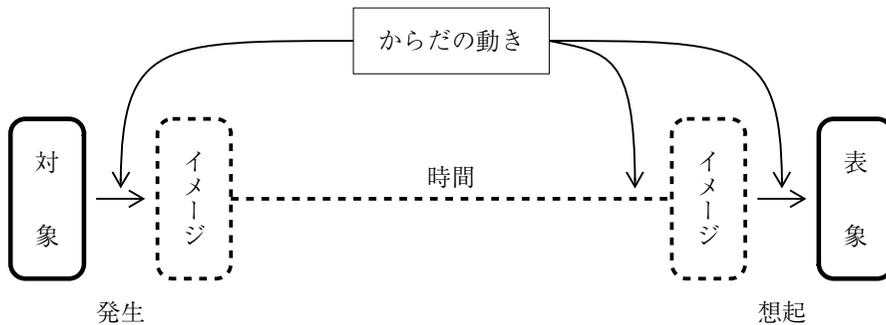


図7 イメージ発生と想起の「からだ」への依存性(佐々木:1987, p.101)

5.2 今後の課題

本事例は、教室で行われている既存の漢字教授/学習方法にオルタナティブを与え、特に非漢字圏出身学習者、生活者に対して漢字への興味を引き出すことが狙いであった。そのため初学者を対象とした学外授業では、歌やダンスなどの音声、身体のパフォーマンスを駆使しながら漢字の構造に意識を向けることをめざした。また日本語学習経験を持たない外国人地域住民に対するワークショップでは、緊急時に必要となる漢字を認識してもらうことをめざし、パントマイムによるストーリーづくりを行った。漢字の持つ視覚的イメージと身体パフォーマンスを結びつけることによって、外国人が「普段は使用しなくても記憶に残る/思い出せる漢字」の学び方/教え方の提案ができたことは意義があると考えられる。

しかし非漢字圏出身の日本語学習者が、日本語の習熟段階において実際にどのように漢字を学んでいるのかというストラテジーについては、今回十分に調査・考察ができなかった。再度詳細な調査が必要である。その上で、今後学習者の日本語習熟度に応じた身体的漢字教授/学習方法を考案したい。そのとき日本語授業とワークショップ活動がどのように連携できるのか、具体的には授業においても身体を使った活動が学習に生かせる場面があるのかという観点からも漢字ワークショップを試行していきたいと考えている。

注

1. 漢字学習の定義については、渡部（2014）が「書き順を意識したり、字形に注意を向ける場合は『漢字学習』、意味や用法にまで注意する場合は『漢字語彙学習』」と区別しているが、本研究は、両方の場合を合わせて漢字学習とする。
2. ベトナムでは1970年代まで義務教育として漢字・漢文教育が行われていた地域があり、またベトナム語は漢字の影響を受けている。しかし現在は義務教育での漢字学習は廃止され公用文にも使用されていないことから非漢字圏とした。韓国では、現在でも漢文教育において教育用基礎漢字の学習を行っているが、漢字が使用される場面は極めて限定されており、通常書きことばは、ハングル語のみで表記されるという使用実態を踏まえ非漢字圏とした。
3. 学習者の言語学習ストラテジーの分類については Strategy Inventory for Learning Language (SILL) (Oxford : 1990) が広く知られており、これを基にして SILK が作成された。
4. 外国人が人口の約5.3%を占める岐阜県可児市を拠点とする NPO 法人可児市国際交流協会は、外国につながる子ども達に様々な就学支援を行っている。2009年には日本の高校への進学をめざす子ども達を対象として「さつき教室」の運営を開始した。ここで学ぶ大半の子ども達は、親の事情などで来日したものの、義務教育の就学年齢を過ぎているために中学校への入学が許可されず、この教室で日本語指導や教科学習、体験学習、進学に関するガイダンスを受けている。
5. また本稿では、両親あるいは片親が海外にルーツを持つ子どもを国籍に関係なく海外にルーツを持つ子どもと呼ぶことにする。
6. さつき生徒を対象としたアンケート調査では、日本語習熟度が低い生徒は、教師の支援を受けて回答した。
7. 日本語能力試験で求められる漢字数の目安は、3級で300語、4級で100語と言われている。文科省が平成20年3月に改訂した学校学習指導要領(国語)は、小学校第1学年で80語、第2学年で160語の習得を目標にしていることを考えると、本アンケートに参加した非漢字圏出身学部留学生も、小学校2年生から3年生程度の漢字語彙力であることが推測できる。

謝辞

本研究は、2014年度朝日大学経営学部研究助成を受けました。お礼申し上げます。また実践においては、多文化演劇ユニット MICHII が2014年度に岐阜県国際交流センターから助成を、また NPO 法人可児市国際交流協会にご後援をいただきました。関係各位に厚く謝意を表します。

特に可児市国際交流協会「さつき教室」の生徒の皆さん、各務眞弓事務局長、美濃加茂市市民協働部地域振興課の佐藤文彦氏と大里誠治氏、美濃加茂市国際交流協会の武田由美事務局長、ブラジル人母親サークル「スイートマザーズ」には、ワークショップの場づくりにおいて多大なご尽力をいただきました。また可児市国際交流協会の近藤利恵事務局次長、「さつき教室」コーディネーターの湯浅美礼氏、東京福祉大学講師（当時）の木下謙朗氏、朝日大学経営学部准教授の米田真理氏、朝日大学留学生別科講師の梶原綾乃氏には、漢字の指導法や学習者の漢字学習状況に関するアンケート調査や聞き取りにご協力をいただきました。

実施にあたっては、Sin Titulo 主宰の田室寿見子氏がプログラム構成および進行・統括の任を担って下さいました。ダンサー・振付家の山田珠実氏、PAVLIC の河野悟氏、多文化演劇ユニット MICHII の山田久子代表とヴァネッサ・クリスティーニ氏、片岡まみ氏とともにプログラム作成から実施までの過程を通じ、試行錯誤を繰り返しながら粘り強く共同作業を先導して下さいました。お礼申し上げます。

参考文献

- 尼ヶ崎彬（1990）『ことばと身体』東京：勁草書房。
- 蓮實重彦（1977）『反＝日本語論』東京：筑摩書房。
- 黒田史彦・李羽喆（2012）「留学生による自立的な漢字学習を実現するための支援方法の開発と実践」『漢字・日本語教育研究』第2号, 日本漢字能力検定協会, 40-60.
- 黒田史彦・小関史・古屋憲章・宮崎七湖・李羽喆（2013）「留学生の自律的漢字学習を支援するためのワークショップの試み」『日本語教育方法研究会誌』, 日本語教育方法研究会, 40-41.
- 佐々木正人（1987）『からだ：認識の原点』, 東京：東京大学出版社。
- 曹喜澈（1994）「漢字系学習者のための漢字教育のあり方 韓国人の日本語学習者を中心に」日本語教育論集『世界の日本語教育』第4号, 国際交流基金, 61-73.
- 武部良明（1989）『漢字の教え方』東京：アルク。
- Tollini, A. (1994) The importance of the form in the teaching of Kanji, 『日本語教育論集 世界の日本語教育』第4号, 国際交流基金, 107-116.
- ウラムバヤル, ツェツェグドラム（2009）「漢字学習ストラテジーに関する研究の現状と課題—非漢字圏日本語学習者にとっての効果的な学習ストラテジーとは—」『日本言語文化研究会論集』2009年 第5号, 43-52.
- ボゲ・ネツラ・アルン（2007）「外国人に対する漢字教育」『日本語・日本文化研修プログラム 研修レポート集』広島大学留学生センター, 1-8.
- 渡部倫子（2014）「非漢字圏学習者のための漢字語彙学習ストラテジー開発」『漢字・日本語教育研究』第4号, 日本漢字能力検定協会, 30-64.

Appendix 1 漢字学習アンケート 2014年実施

漢字学習アンケート



☆このアンケートはみなさんが、ふだん、どのように漢字のべんきょう
 をしているのか、また漢字の何を難しいと感じているのかを知るため
 のものです。ぜひご協力をおねがいします！

A. あなたのことをおしえてください。

1. 性別（せいべつ）→
 出身国（しゅっしんこく）→
 母語（ぼご）→
 母語以外（ぼごいがい）に使（つか）えることば：
2. いつから日本語（にほんご）の勉強（べんきょう）をはじめましたか？
 → 才ごろから
3. どこで日本語（にほんご）の勉強（べんきょう）をはじめましたか？高校（こうこう）や
 日本語学校（にほんごがっこう）というように、学校（がっこう）の種類（しゅるい）を
 おしえてください。
 → 日本にくる前（まえ）、（ ）で
 日本にきた後（あと）は、（ ）で
4. 日本語能力試験（にほんごのうりよくしけん）でもっている級（きゅう）をおしえてくだ
 さい。
 （N1、N2、N3、N4）
5. 日本語（にほんご）をつかって、あなたが自信（じしん）をもってできることにいくつで
 も○をつけてください。
 - 1) あいさつができる
 - 2) レポートを日本語で書（か）いたり、テストの答（こた）えを日本語で書（か）く
 - 3) 授業中（じゅぎょうちゅう）先生（せんせい）の話（はなし）をきいて、わからない
 ことを質問（しつもん）することができる
 - 4) 日本語でメールをうったり、PCの日本語HPを読（よ）むことができる
 - 5) 日本語で電話（でんわ）ができる

B. 漢字（かんじ）の勉強（べんきょう）のことをおしえてください。

1. いつから漢字（かんじ）の勉強（べんきょう）をはじめましたか？
 → 才ごろから
2. あなたが最初（さいしょ）におぼえた漢字（かんじ）は何（なん）ですか？また好（す）
 きな漢字（かんじ）は何（なん）ですか？
 → はじめておぼえた漢字（かんじ）（ ）
 → 好きな漢字（かんじ）（ ）

3. あなたは漢字（かんじ）に、「へん」や「つくり」があることを知（し）っていますか？
あてはまる方に○をつけてください。
→ 知っている、 知らない
4. 漢字（かんじ）の学習（がくしゅう）には、何（なに）をつかいましたか？あてはまるもの**のぜんぶ**に○をつけてください。
1) 学校（がっこう）の教科書（きょうかしょ）
2) 先生（せんせい）が授業中（じゅぎょうちゅう）にくばったプリント
3) 自分（じぶん）で買（か）った参考書（さんこうしょ）やドリル
4) マンガや小説（しょうせつ）など日本語（にほんご）で書（か）かれた本（ほん）
5) インターネットやスマートフォンの翻訳（ほんやく）サイト
6) 映画（えいが）やテレビの字幕（じまく）
7) 辞書（じしょ）
8) そのほか（ぜんぶ書（か）いてください）
(→)
5. 漢字（かんじ）の学習（がくしゅう）をどう思っていますか？あてはまるもの**にいくつでも**○をつけてください。
1) 楽しい（たのしい）
(りゅう→)
2) もっとたくさんおぼえたい
3) 勉強（べんきょう）のしかたがわからない
4) むずかしい
5) 漢字（かんじ）のじしょがひけない
6) そのほか (→)
6. 5. でむずかしいに○をつけたひとへ。漢字（かんじ）学習（がくしゅう）のどこが難（むずか）しいですか？あてはまるもの**にいくつでも**○をつけてください。
1) ひとつの語（ご）にたくさん読み方（よみかた）があること
2) 書き順（かきじゅん）が決（き）まっていること
3) 漢字（かんじ）の意味（いみ）が想像（そうぞう）できないこと
4) おぼえる熟語（じゅくご）がたくさんあること
5) なかなかきれいに書（か）けないこと
6) そのほか (→)
7. あなたが、後輩（こうはい）から、漢字（かんじ）の勉強（べんきょう）のしかたをたずねられたとします。もし、アドバイスをするとしたら、何（なに）を言（い）ってあげますか？あなたがやっている勉強（べんきょう）の方法（ほうほう）をぜんぶおしえてください。



ありがとうございました！

Appendix 2 漢字ワークショッププログラム 2014年12月12日実施分 14:00~16:00

(於：可見市総合会館分室)

- 活動目標：1. 身体を使って漢字の語が持つイメージが表現できる
 2. 漢字の構造（部首）に興味をもつ
 3. グループで協力して学習ができる

時間	活動内容	参加者の動き
0:00	※挨拶 ファシリテーター自己紹介 ※オリエンテーション 「どのくらい日本語わかりますか？わからない人をわかる人が助けてね」 (参加者の日本語力の確認) 1. ウォーミングアップ クラップ回し（順送、逆走、ハイタッチ）	<ul style="list-style-type: none"> ・胸に名前を書いたテープを貼る ・輪になって座る ・立ち上がって輪をつくる
0:15	2. 「幸せなら手を叩こう」 2-1 歌とふりの練習 <ul style="list-style-type: none"> ・紙に書かれた歌詞を見せる。歌ってきかせる 外国語バージョンも聞く ・ホワイトボード上の歌詞を見ながらみんなで歌う 歌詞の意味を確認 <ul style="list-style-type: none"> - 1番を歌いながら、ふりをつけて練習 - 2番を歌いながら、ふりをつけて練習 (「足」と「鳴らそ」を強調) - 3番を歌いながら、ふりをつけて練習 (「怒ったとき息吐こう」と「怒ったとき体はカチカチだ」のオリジナルの歌詞を覚えてもらう) - 3番まで通して振付をした後、改めてホワイトボードの歌詞を見ながらみんなで歌う 	<ul style="list-style-type: none"> ・立ったまま広がった輪になる ・歌いながら、ファシリテーターのまねをしてふりをつけていく
0:40	2-2 歌詞の漢字あてはめクイズ <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードの歌詞を見せる 叩こう、鳴らす、吐こう、手、足、息、怒るなどのキーワードの箇所がすべて平仮名で書かれ赤く囲ってある。 ・漢字をもう一つのボード（多数の漢字カードが混在して貼ってある。同じ漢字は同じ色）から探して貼り付ける活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに注目する ・ボード前に集合して、合図とともに適切な漢字カードを選び、歌詞カード上に一斉に貼っていく 互いに手伝う

時間	活動内容	参加者の動き
0 : 45	2-3 歌詞の漢字解説 <ul style="list-style-type: none"> ・クイズの答え合わせ ・「口」のつく漢字の説明 「叩」「鳴」「吐」 ・「心」のつく漢字の説明 「怒」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターを前に半円をつくっていすに着席 ・立ってみんなでアクションをする 叩きあう、ニャー、コケコッコーと鳴く、息を吐く
1 : 00	(休憩)	<ul style="list-style-type: none"> ・怒る漢字のイメージをアクションする「女が足をふんばって(股をひろげて) おこる」
1 : 10	3. 漢字ダンス	
	3-1 ダンスの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・「心」がつく漢字さがし ・例としていくつかの漢字を板書 「今日は「心」がつく漢字の振付をみんなに作ってもらいます。振付というのはダンスです」 ・デモンストレーション「悪」 <ul style="list-style-type: none"> - ファシリテーターから振付の案を聞いて有志生徒が実演 - 「幸せなら〜」の音楽をハミングで歌う - 「心」は必ず表現するというルールを確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・半円になって座る ・知っている字を発言
1 : 25	3-2 グループでのダンスづくり <p>「ダンスをしてみたい漢字を一つ選んでください。早いもの勝ちです」</p> <ul style="list-style-type: none"> - 5分以内で創作 - ファシリテーターがグループを援助 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つのグループに分かれる ・ボードに貼ってある漢字カードの中からグループごとに振付する漢字を選ぶ ・大きな紙に漢字を書き写す
1 : 35	3-3 グループ発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの発表 - ファシリテーターが歌う、コメント 	<ul style="list-style-type: none"> ・サブファシリテーターにわからないことを尋ねる ・舞台エリアに向かって着席 ・各グループが書いた漢字を貼る
1 : 55	4. まとめ <p>今日覚えた「心」のつく漢字は「心」「息」「怒」「悪」「悲」「忘」「思」・・・その他「手」「足」「叩」「鳴」「吐」も覚ええました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「怒」のふりつけを全員でやってみる <p>「今日は終わりです。「心」や「口」のつく漢字は、ほかにもたくさんあります。調べてみましょう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・半円になって立つ ・ホワイトボードを確認 ・ファシリテーターと声を合わせて踊る ・歌と学習漢字グループが書いたプリントをもらう